

■児童・生徒の学力の状況

- 今年度の「全国学力・学習状況調査」では、国語・算数共に平均正答率が全国を下回った。選択式、短答式、記述式では、特に記述式の正答率が低い。また、どの問題形式でも無回答率が高かった。
- 学校に行くことを楽しいと思い、学習した内容を次の学習につなげようとする児童が多い一方で、授業時間外に学習に取り組む児童は少ない。
- 「ICTを活用した学習状況」についての肯定的な回答が都や全国より高い。普段からタブレット端末を活用し自分の考えを表現することができる児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 基本的な知識技能を定着させるために、ドリルやプリントで繰り返し問題を解いたり、家庭学習で復習したりすることを通して、習熟させる時間を設定する必要がある。
- 普段の学習で自分の考えや物事の説明をノートに書いたり、まとめたりする場面を増やす必要がある。
- 児童が、文章や図から情報を正確に読み取ったり、その情報を活用したりする時間を確保する必要がある。
- 学習計画に基づいて自分に合った内容、方法、ペース、順序を意図的に選択できるような学習の機会を設定する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 板橋区授業スタンダードを徹底し、めあての把握、個別学習、協働学習、振り返りを基本的な授業展開として定着させる。
- 板橋区授業スタンダードSを実施し、児童による学習の自己調整を行う時間を確保する。
- 児童が主体的・協働的に探究したり、主体的・対話的で深い学びを進めたりしていくために、児童同士の関わり合いを重要視した授業改善を進める。
- 算数科では、基礎的・基本的な内容を定着させるために、東京ベーシックドリルを毎学期に行い、結果から学力向上週間や家庭学習の改善を図る。また、習熟度別指導を行い、児童の実態に沿った授業を展開する。
- 言語能力を育むために、児童同士による多様な言語活動（話し合い、発表等）や読書活動に取り組めるように授業改善を進める。
- 自分自身で問いを発見したり解決したりする力を身に付けるために、問題解決的な学びを行い、授業改善を進める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

- 学習の流れ（学習の目標（ねらい）の掲示→自分で考える時間の確保→子ども同士で学び合い、教え合う時間の設定→学習のまとめの実施→学習を振り返る時間）を確立し、実践する。
- 学習のまとめを自分の言葉で書けるように指導する。
- 板橋区授業スタンダードSでは、発達段階に応じた自己調整学習を推進する。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

- 一人一台端末を有効に活用し、学習課題への興味・関心を高めたり、学習内容を視覚的に捉えやすくしたりする。
- 考えをまとめたり、相手に分かるように論理的に伝えたりすること等、児童の情報活用能力を育てる。

視点3

総合的な学習の時間との連携

- 全学年が地域を教材にした学習をすることで郷土愛を育みながら、自ら課題を見だし、探究する児童の育成を目指す。その際、学習計画に基づいて自分に合った内容、方法、ペース、順序を意図的に選択できるような環境を設定する。
- 学びのエリア内の6年生と7年生で児童・生徒の交流を含めた連続性・系統性をもたせた指導を行う。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○学びのエリアで6年生が「日光ラボ」を行い、近隣の6年生と一緒に学んだり、7年生への接続を意識した取組を行う。 ○1年生が生活科で保育園児や幼稚園児を招待した「あきまつり」や「新しい1年生を招待しよう」を行い、小学校に親しみをもって入学するような活動をする。 ○スタートカリキュラムの見直し、中学校との情報交換を行い、円滑な接続を図る。	○基本的な生活習慣の確立、毎月行う安全指導、ルールメイキングなど生活指導を充実させる。 ○いじめの早期発見・早期対応を組織的に行う。 ○挨拶、集まり、歩き方の「3つのあ」を意識させ、定着させる。 ○運動習慣を確立させたり、食育を行ったり、地域の企業と連携した、運動教育や健康教育を行ったりする。	○特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を開き、必要な支援を行う。 ○「個別指導計画」「学校生活支援シート」を作成、共有し、特性に応じた学習、生活面での配慮を行う。 ○合理的配慮としてのICT機器の活用を充実させていく。 ○地域人材（iCSや保護者）の力を活かした授業を進めていく。